



ほけんだより



暦の上ではもうすぐ春を迎えますが、まだまだ寒さの厳しい日が続きます。つい寒さに身体を縮めて、下を向いて歩いてしまいがちですが、『冬来たりなば春遠からじ』と言われるように、少し上を向いて歩いてみると椿(つばき)や山茶花(さざんか)が見事な花を咲かせていたり、蠟梅(ろうばい)の黄色く透き通った花が見られたり、とすぐそこまで来ている春の足音を感じる事が出来ます。たまには顔を上げて、春の気配を探してみてください。

今年は、4年に一度の『うるう年』にあたります。暦と実際の太陽の動きの差を調整する為に、2月29日が追加される特別な年です。因みに、2月29日生まれの場合、運転免許証等の行政手続きは、2月28日生まれとして取り扱うと定められているそうです。英語では、うるう年を「Leap Year」、2月29日の事を「Leap Day」と言います。平年はその前年の同じ日より1曜日ずれるけれど、うるう年の翌年は2曜日ずれて平年より1つ飛び越える(leap)事からそう呼ばれるそうです。今月はいつもより1日多いのか…とついマイナスに考えてしまいがちですが、4年に一度のおまけの一日を飛躍(leap)の為の大切な日にしたいですね。

感染症情報



インフルエンザ(A型) 5名

新型コロナウイルス感染症 1名

感染性胃腸炎 8名



※だらだらと様々な感染症の発生が続いています。都内でも、インフルエンザ・アデノウイルス感染症・溶連菌感染症・新型コロナウイルス感染症等が多発的に流行しており引き続き注意が必要です。

※インフルエンザ等の流行に伴い、学校の学級・学年閉鎖も増えています。感染拡大予防の観点から学級閉鎖になったクラスや学年閉鎖になった学年に在籍している児童を連れての送迎はお控え下さい。ご理解・ご協力、よろしくお願い致します。

※インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症罹患中は、感染拡大予防の為、登園停止期間中の外出は控え、自宅での安静をお願いします。

まさか大豆で?! こんな事故に気をつけて

節分と言えば豆まきですね。1年の無病息災を願ってまく豆ですが、思わぬトラブルを招くことがあります。



小さい子どもは、かみ砕いたり飲み込んだりする力が不十分なため、豆が気道に入りやすく、肺炎を起こすことも。また、気道が狭いので窒息した例もあります。

消費者庁は.....

3歳頃までは豆やナッツ類を食べさせない

3歳以上の幼児は食べることに集中させ、よくかみ砕くように

.....と呼びかけています。

豆まきをした後は、子どもが拾った豆を口に入れてしまう場合があります。後片付けもしっかり気をつけたいですね。



子どもの嘔吐

こんな時どうする?

感 染性胃腸炎など、冬に気をつけたい病気の流行が予想されています。もしお子さんが吐いてしまったら...こんなところを見てあげてください。

① 確認すべきポイント

- 熱があるか
- 便の状態、おしっこの回数
- 頭やおなかを痛がっているか
- 周囲に似た症状の人がいるか



② 注意してほしいこと

- 吐いた直後は水分を与えず、少し落ち着いてから白湯やお茶などをひと口ずつとらせる
- ぐったりしている、顔色がおかしい、何度も吐く場合は、すぐに受診を

吐いたことに驚いて怖がり泣いてしまうことも。「大丈夫だよ」と安心させてあげる声かけも忘れずに。



なぜカゼは

病気になることを「病気になる」
と言いますが、カゼの時だけ「ひく」と言うのはなぜでしょう?

大昔の中国ではカゼをひいたとき、「悪い空気(風)が体に入った状態」

だと考えられていたそうです。この悪

い空気のことを「邪気」と言い、体の中に邪気を引き込む、という表現か



ら、他の病気のように「かかる」ではなく「引く(ひく)」といわれるようになったとか。ちなみにカゼのことを漢字で「風邪」と書くのは、この話がもとになっているのだそうです。

まだまだ寒い冬。悪いものを引き込まないように、うがい・手洗いでブロックを!



ひく

なの?